
素直に為れなくて

アンゴル・モア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素直に為れなくて

【Nコード】

N0845BA

【作者名】

アンゴル・モア

【あらすじ】

蘭と新一はトロピカルランドでデートをする予定だったが、高木刑事からの電話で行けなくなってしまった。

蘭は『事件だから仕方がない』と想いつつも、なかなか『素直』に為れなくて！？

痛み（前書き）

始めたばかりなので、自信がないんですが、

頑張ります！

痛み

今日は新一と久しぶりにトロピカルランドに行く予定だった

私はずっと楽しみにしていた

久しぶりに新一と一緒に居られると思っていたのに...

新一の携帯が鳴るまでは...

プルプル...プルプル...

新一の携帯が鳴った

(電話！誰からだろう？)

この時はまだ知らなかった

まさか…

トロピカルランドに行けなくなるなんて――

携帯のディスプレイを見て新一の顔が変わった

高木刑事からだ…

まさか…

新一は嫌な予感がした

もしかしたら、蘭とトロピカルランドでデート出来ないかもしれない
い

蘭とデートに行けなくなるかもしれない

電話の相手は

高木刑事からだった

ピッ

『はい。工藤です』

『あつ工藤君？高木だけど実は…』

高木刑事の言いづらそうな声がした

高木刑事は二人がトロピカルで

デートすることを知っているからだ

（高木刑事？また事件かな？）

高木刑事から電話という事は

もしかしたら、新一と

トロピカルランドに行けなくなるかもしれない…

いや、今日はきっと行けないだろう

蘭は俯いて

ただ

黙って俯いていた

……新一はしばらく高木刑事と話しをしていた

『はい…はい…わかりました！いえ、大丈夫です！また今度行きま
すから…』

蘭は『また今度』という言葉聞いて

一瞬

グサツと心に何かが刺さったのが分かった

新一は

仕方ないよね…

ズキン

そっか…

ズキン…

『探偵』

なんだし

ズキン…

何時呼ばれても

おかしくないよね

ズキン…ズキン…

でも、

私の心は

素直になれない

ズキン…

ズキン…

電話を終えると

申し訳なさそうな顔で

新一は蘭を見た

蘭の顔を見た新一は

携帯を落としそうになって

慌てて掴んだ

新一が見た蘭は
泣いていた

俯いて

『蘭……フリィ……行けなくなっちゃった……』

『……………』

蘭の啜り泣く声が聞こえる

ほら、

泣いちゃ
…

ダメ！

新一が困っている

それでも

涙は止まるどころか、

眼から溢れて出てくる

『あつ…そのつ…なんだ…また今度の休みに行こうぜ!』

『……』

『だっ、だから泣くな…』

『バカ…』

へっ？

今、何て言った？

『ら、蘭？』

俺は一瞬

何を言われたのか
わからず、

啜り泣く蘭を

見た

グズっ
…

グズっ
…

『新一の…』

『新一のバカっ!!』

(違う…)

本当はこんな事が言いたいんじゃない。

本当は、『仕方がないよ!』とか、新一のせいじゃないから気にしないで!』

って

言いたいのに…。

事件のバカ

新一を連れて行かないでよ…

事件さえ起きなければ

新一と一緒に

大っ嫌い!!

事件なんか

居られたのに…

パ
ア
ア
ン
…

気がついたら私は、新一の頬を叩いていた

『ら、蘭？』

新一は

左の頬に

手を当てて

呆然とした表情で

蘭を見た。

新一の頬は、

赤く膨れている。

まだ叩かれた衝撃で

左の頬が

悲鳴を上げていた

『…新…一何て……』

『へ?』

『新…なんて…』

『もう、知らないっ!!』

蘭は

声を上げて

ドアをあけ

俺は

出て行ってしまった

新一の家から

叫んだが、

と

『蘭！ーあーん！！』

蘭は

振り向かずに、

走って行ってしまった。

新一は

自分を責めた。

『俺のせいだ…』

(俺がいつもあいつを一人にしているから…)

あいつと一緒に

居てやれないから

俺が

もし、

『探偵』じゃなかったら、

蘭の側に居てやれるのに…

…ごめんな

『蘭…』

（俺は最低な奴だ…）

痛み（後書き）

感想・ご意見

何でも書いて下さい！！

素直に為れなくて（前書き）

続きです。

素直に為れなくて

今日は新一と久しぶりにトロピカルランドに行く予定だった

私はずっと楽しみにしていた

久しぶりに新一と一緒に居られると思っていたのに…

新一の携帯が鳴るまでは…

プルプル…プルプル…

新一の携帯が鳴った

(電話!誰からだろう?)

この時はまだ知らなかった

まさか…

トロピカルランドに行けなくなるなんて――

携帯のディスプレイを見て新一の顔が変わった

高木刑事からだ…

まさか…

新一は嫌な予感がした

もしかしたら、蘭とトロピカルランドでデート出来ないかもしれない
い

蘭とデートに行けなくなるかもしれない

電話の相手は

高木刑事からだった

ピッ

『はい。工藤です』

『あつ工藤君？高木だけど実は…』

高木刑事の言いづらそうな声がした

高木刑事は二人がトロピカルで

デートすることを知っているからだ

（高木刑事？また事件かな？）

高木刑事から電話という事は

もしかしたら、新一と

トロピカルランドに行けなくなるかもしれない…

いや、今日はきっと行けないだろう

蘭は俯いて

ただ

黙って俯いていた

……新一はしばらく高木刑事と話しをしていた

『はい…はい…わかりました！いえ、大丈夫です！また今度行きま
すから…』

蘭は『また今度』という言葉聞いて

一瞬

グサツと心に何かが刺さったのが分かった

新一は

仕方ないよね
…

ズキン

そっか
…

ズキン
…

『探偵』

なんだし

ズキン…

何時呼ばれても

おかしくないよね

ズキン…ズキン…

でも、

私の心は

素直になれない

ズキン…

ズキン…

電話を終えると

申し訳なさそうな顔で

新一は蘭を見た

蘭の顔を見た新一は

携帯を落としそうになって

慌てて掴んだ

新一が見た蘭は
泣いていた

俯いて

『蘭……フリィ……行けなくなっちゃった……』

『……………』

蘭の啜り泣く声が聞こえる

ほら、

泣いちゃ
…

ダメ！

新一が困っている

それでも

涙は止まるどころか、

眼から溢れて出てくる

『あつ…そのつ…なんだ…また今度の休みに行こうぜ!』

『……』

『だっ、だから泣くな…』

『バカ…』

へっ？

今、何て言った？

『ら、蘭？』

俺は
一瞬

何を言われたのか
わからず、

啜り泣く蘭を

見た

グズっ
…

グズっ
…

『新一の…』

『新一のバカっ!!』

(違う…)

本当はこんな事が言いたいんじゃない。

本当は、『仕方がないよ!』とか、新一のせいじゃないから気にしないで!』

って

言いたいのにな…。

事件のバカ

新一を連れて行かないでよ…

事件さえ起きなければ

新一と一緒に

大っ嫌い!!

事件なんか

居られたのに…

パ
ア
ア
ン
…

気がついたら私は、新一の頬を叩いていた

『ら、蘭？』

新一は

左の頬に

手を当てて

呆然とした表情で

蘭を見た。

新一の頬は、

赤く膨れている。

まだ叩かれた衝撃で

左の頬が

悲鳴を上げていた

『…新…一何て……』

『へ?』

『新…なんて…』

『もう、知らないっ！！』

蘭は

声を上げて

ドアをあけ

俺は

出て行ってしまった

新一の家から

叫んだが、

と

『蘭！ーあーん！！』

蘭は

振り向かずに、

走って行ってしまった。

新一は

自分を責めた。

『俺のせいだ…』

（俺がいつもあいつを一人にしているから…）

あいつと一緒に

居てやれないから

俺が

もし、

『探偵』じゃなかったら、

蘭の側に居てやれるのに…

…ごめんな

『蘭…』

（俺は最低な奴だ…）

素直に為れなくて（後書き）

感想・ご意見

ご指摘、

お待ちしてますm（ ）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845ba/>

素直に為れなくて

2012年1月1日23時48分発行